

与那城町照間「照間い草生産組合」

生産
部門

ビーグ(い草)で織りなすふるさとづくり (平成15年度認定)



当地区は、金武湾を望む、町の最北端に位置し、農業が盛んで主にサトウキビやい草を栽培している。特にい草は県内需要の約7割のシェアを占めており、豊表も照間産がほとんどである。しかし、県外産との競合、担い手不足の影響で作付面積は年々減少しつつある。

現在、町内のい草農家は35戸あり、豊表の加工まで行なっているが、その他にも、い草を使った枕や座布団などを地元の女性グループで製品化し、平成15年4月にオープンしたあやはし館でも販売している。また、いぐさ産地協議会による対策の一つとして食品産業への展開が図られている。

具体的には、い草はビーグとよばれ昔から薬草としても用いられており、豊富な食物繊維、抗菌作用、活性酸素の消去能など、豊以外の新しい産業を創出できるものとして注目されている。特に与那城町産のビーグは農薬を殆ど使用せず、海に面しているため、ミネラル分を多く含んだ水で栽培されており、ビーグにも多くの機能性物質を含んでいることが予想され、安全な「薬草」として有望視されている。

